

2023年度

Since 1969
To the future

- 2 会長あいさつ・役員紹介
- 3 教員だより
- 4 - 11 卒業生だより
- 12 - 15 卒業生だより クラス会・OB/OG会
- 16 大ほんごう会のお知らせ
事務局からのお知らせ
編集後記

VOL.
27

富山高等専門学校本郷キャンパス同窓会会報

ほんごう

令和5年11月18日(土) 大ほんごう会(同窓会総会・懇親会)参加者大募集!(詳細はP16をご覧ください)

撮影

E9 佐伯則男「夏を迎えた立山みくりが池」



会長あいさつ・役員紹介

ほんごう会の皆様へ

富山高専本郷キャンパス同窓会会長
長浜 啓一 Keiichi Nagahama



ほんごう会員の皆様には、健康で元氣にお過ごしのことと思います。私が前石山会長さんから会長職を引き継いで4年目を迎えました。この間、コロナ禍において満足な活動が出来ず、会員の皆様にはご心痛をお掛け致しました。

コロナ禍も第2類から第5類に変更され、行動制限も解除され色々な活動が行えるようになりました。ほんごう会においても、本年はコロナ前のように活発な活動を行いたいと考えております。

1. 大ほんごう会のリアル開催

コロナ禍時では、実施出来なかったリアルでの開催を本年度は行いたいと準備をしています。日々の生活で忙しいとは思いますが、平生なかなかお会いできない恩師、同窓生、先輩や後輩の方々と歓談して、繋がりを深めて頂きたいと考えています。是非とも参加をお願い致します。

2. 会報誌の充実

富山県内だけでなく、全国で活躍されている卒業生の方々に寄稿文の依頼を行い会報誌に載せさせて頂いています。今後、さらに寄稿者の数を増やし会員の皆様にお知らせし、皆様の活動の励み、参考になればと考えております。

3. 若手の常任理事の増員

現役組の若い世代にも声を掛け、常任理事として参加をお願いしています。現役の世代では、仕事以外の活動は負担が増えるとは思いますが、活動を通じて世代の違いや仕事上での業種の違い等広い範囲の繋がりを作って頂き、日々の活動に役立てて貰いたいと考えております。

4. 富山高専同窓会（新同窓会）、北斗会、ほんごう会の名簿統一に向けた活動

現在 沼津高専卒業生が立ち上げた会社(株)アーティスティックス)に名簿管理システムをお願いすることに決定致しました。(株)アーティスティックスは、沼津高専同窓会の名簿管理に関わっており、高専の仕組み等を熟知されている事などから選定致しました。

ほんごう会員の皆様が、年代を超えて業種を超えて、関わり合い繋がり合いながら、益々ご発展されることを祈願致します。

役員の紹介	再/新	氏名	卒業年/学科期	現在の勤務先	備考
会長	再	長浜 啓一	S48/M5	(株)KANAYA	
副会長	再	打出 孝彦	S53/C10	北日本電機産業(株)	富山高専技術振興会法人会員代表者
	再	上田 一人	S58/M15	(株)Eアル	富山高専技術振興会法人会員代表者
常任理事	再	長谷 治男	S44/M1		
	再	藤田 正良	S52/E9		
	再	金井 毅俊	S53/K5		
	再	一谷 雅幸	S54/M11	(株)コラピエット	富山高専技術振興会法人会員代表者
	再	鋪田 博紀	S59/K11	富山市議会議員	富山高専技術振興会個人会員
	再	種部 元仁	S63/E20	(株)北陸経営	富山高専技術振興会個人会員
	再	高清 徳義	H10/M30	(株)大谷製鉄	
	新	藤木 邦弘	S53/C10		
	新	吉田 功	H7/C27	シミックCMO(株)	
	新	青木 啓明	H9/M29	(株)青木工業所	富山高専技術振興会法人会員代表者
	新	高木 亨	H10/M30	富士通(株)	
監事	再	渡辺 亮介	H15/M35	(株)NFA R&D	富山高専技術振興会法人会員代表者
	再	浜下 朝夫	S44/M1	富山高等専門学校	特任教授、コーディネーター
学校窓口	新	栗原 貞雄	S48/E5	シードシステムズ(株)	富山高専技術振興会法人会員代表者
	新	高橋 勝彦	S56/K8	富山高等専門学校	機械システム工学科 教授

再 再任、新 新任

教員だより

富山高等専門学校 校長あいさつ

富山高等専門学校 校長
國枝 佳明 Yoshiaki Kunieda



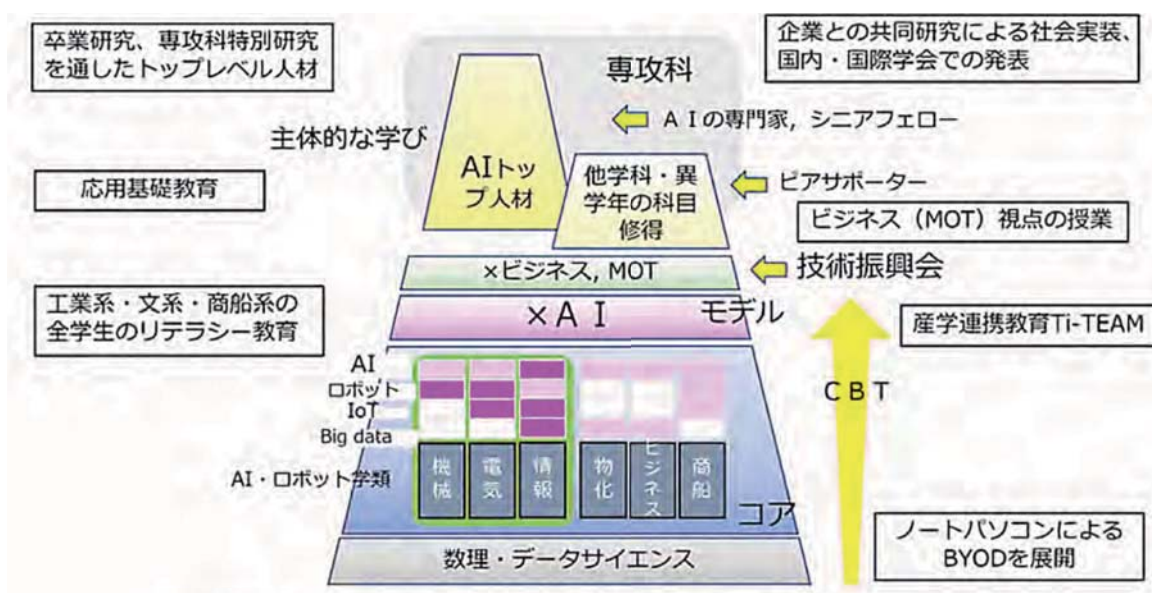
ほんごう会の皆さま、“はじめまして”令和4年4月1日に着任いたしました國枝佳明と申します。前職は東京海洋大学学術研究院海事システム工学部門で教授をしていました。その前は(独)航海訓練所で練習船の航海士、船長として船員教育・訓練に従事しておりました。出身は新潟県新津市(現新潟市秋葉区)で、雪に抵抗はなく雪を見てはしゃぐ方ですが、寒さに閉口しているのは年齢のせいかと感じております。

私が船の世界へと進んだのは、「仕事で海外へ行けるなんてラッキーじゃん。」という単純な理由で、その昔は、海外旅行が今ほど簡単ではなく、今以上に多額の費用が必要だったことから船に乗りたいと考えたわけです。お蔭で世界一周航海を2回、ロサンゼルスオリンピック記念航海、オーストラリア建国200年祭記念航海などに参加させていただきました。

世界一周航海は東回りで、日付変更線を越えたりピートと言って同じ日をもう1回繰り返します。往復航海であれば、帰りの航海で日付変更線を越えた時にスキップと言って次の日が無くなります。世界を東回りで2周しているので、私は皆さんよりも2日多く生きています、と言っています。

ご存じのとおり富山高専は、2009年に富山工業高等専門学校と富山商船高等専門学校が統合して富山高等専門学校として新たな道を歩んでいます。最近では2017年度入学生から全学科で数理・データサイエンス・AI教育を実施しています。この教育プログラムは、文部科学大臣から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」に認定されました。この認定制度は、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、これを理解し、活用する能力を育成することを目的としています。令和2年度からは、各専門分野でのAI・データサイエンスの応用力を身に付けるため、応用基礎レベルの教育プログラムを開始しました。また、令和3年度からは、全学科1年生で「データサイエンスⅠ及びⅡ」を開講するなど、継続的に教育プログラムを改善、進化させるように努めています。

このように社会のニーズに合わせ、日本のため、世界のため、社会のために活躍できる人材育成のため、日々改善に努めています。ほんごう会の皆さまには、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



数理・データサイエンス・AI教育を盛り込んだカリキュラム概念図

卒業生だより

～「紳士・淑女」の皆様へ～

元富山県環境科学センター所長

岩田 助和 Sukekazu Iwata (C1)

母校は、開校してから早60年、第一期卒業生が「後期高齢者」になろうとしている。この機会に設立当初の記憶を「歴史」として刻んでおこうと思った。同級生は古い記憶を呼び起こし、後輩たちは「温故知新」、未来に向かって活躍して欲しい。物忘れ一步手前の昔話であり、記憶誤り等があればご容赦を。



国立富山高専の設立

1963年(昭和38年)3月、北陸3県で初めて富山県に国立高専が設立されることが決定した。我が国の産業の急激な発展に対応するため、従来の6、3、3、4に加えて6、3、5という新制度の学校の誘致に富山県が成功したものである。これは、富山・高岡地区の新産業都市の決定とも相まって、マスコミで大きく報道され、県内の中学校の関心は一気に高まった。私の通う中学校でも先生方が「腕試し受験」を大いに勧めたことを記憶している。そして、翌1964年(昭和39年)2月、入学試験が芝園中学校と富山中部高校の両校で実施された。私は芝園中学校で受けたが、会場に着きびっくりした。何と、バスに乗って受験にくる学校もあったのだ。なにしろ、競争率は全国一の20倍であり、会場はごった返していた。受かろうという気は全くなく、気楽なものであった。同年4月18日、開校式及び入学式が新校舎でとり行われた。初代校長は野路末吉氏で、開校宣言に続く挨拶の中で、君たちは、今日から生徒ではなく、大学生同様「学生」であり、「紳士・淑女」である、この学校の校風と伝統の基礎は諸君一人ひとりにある、という言葉は15歳の胸に深く刻まれた。

高専生活

家は入善の田舎なので寮から通学したが、渡された同級生名簿を見てびっくりした。当時は「統計会テスト」というものがあり、県内順位が公表されていたが、上位ランク者がかなり入学している。石川県、福井県勢も同様らしい。えらいことになったと思った。当時、寮の消灯時間は22時～23時頃だったと記憶しているが、みんなそれどころではない。電気スタンドに毛布をかぶせ、寮言葉で「盗電」を行い、必死に勉強した。巡回する寮監の先生も見ぬふりだった。また、15の春に親元を離れ、ホームシックになる者もあり、なんとか、励ましあいながら生活した。とはいえ、それも1年、後輩たちが入寮してくると、いつのまにか、先輩風を吹かせていた。そのころの構内はぬかるみが多く、通学はいつも長靴であり、ひと目見て「寮生」と分かったものである。4年、5年になると上級生の寮になり、いまだから言うが、よく寮監の先生を交えて麻雀したものだ。実におおらかな時代であった。最も、麻雀は卒業後の世渡りに大いに役立ち、当時の必須科目であった。寮といえ

ば、1967年(昭和42年)から1968年(昭和43年)に総代を務め、寮祭では、学校側を説得し、当時、若者が熱狂したエレキバンドステージを執行した。時間に余裕があり、寮には音楽に凝る人も多かった。また、初めての寮生バス旅行も行った。青春時代の濃き思い出である。学校の催しは当然ながら公開し、近くの会社の女性や女子高の生徒も招待した。これがきっかけで青春の1ページを飾った人もいたのではないか。

次は、クラブ活動である。私は、中学からやっていたバレエ部を立ち上げ、顧問の関場鐵也先生は私を初代キャプテンに任命した。練習しようにも体育館はない。寮の近くに屋外コートを作るため、皆でローラーを引いてコートを作った。グラウンドもそうである。「高専」という性格上、なかなか大会や練習相手に恵まれず、高校、大学に丁寧な依頼状を書き、練習試合を行った。引退間際には、思い出づくりとして、社会人等が参加する富山県代表大会に出場した。なんと決勝戦に進み、これに勝てば東京だ、と意気込んだが敗退した。翌日の新聞を見て大変悔しかったことを思い出す。その頃、寮の周辺はうさが飛び回る田園地帯であったが、しばらくすると一軒のラーメン店が開店し、よくラーメン一杯で長居したものである。また、「高専第一期」ということで何事にも地域の協力が得やすく、なんとなく可愛がられていたような気がする。

卒業が近くなれば、いよいよ卒研である。私は当時、我が国の最大課題であった「公害」に関心を持ち、都市公害を選んだ。こつこつと市内を流れる河川の水質調査を行い、富山県にもデータを提供した。河川下流は、黒く澱み斃死魚類が非常に多く、大いに問題意識、危機意識を持ったものである。その頃の我が国は、高度経済成長のひずみがでて、連日「公害事案」が報道され、本県も、カドミウム、水銀等の汚染が表面化し、全国の縮図のようであった。



鹿島槍

卒業生だより

社会人

就職は県内外から数多くの求人がきたが、家庭の事情もあり、県内の伸び盛りの大企業を選んだ。入社後すぐ、上司から、「君は卒研で公害をやっていたのだから、当部門で初めての排水処理施設の建設をみてくれ」と言われた。ピーカーを扱っただけなのに戸惑ったがやるしかない。業者に叱られながらようやく完成させると、こんどは、「3人の部下をつけるから、施設管理のチーフになれ」との命令だ。20歳を過ぎたばかりの若造に部下をつけるとはすごい会社だった。この時代は、公害国会や県議会が開かれ、諸法令に基づく届出書の作成に一人で携わった。おかげで、給料よりも残業手当が多かった月もあった。半面、若手であろうと裁量権も十分与えられ、自由闊達な雰囲気だった。

入社2年目になる直前、富山県が公害防止に携わる職員を募集していると聞き、どうせなら卒研から一貫通貫、全うしてやろうと思い、試験会場の県民会館に向かった。大学生、大学院生、社会人が大勢いて驚いたが、実務を経験したせいか、運よく新採職員として再スタートすることができた。入庁当初は、高専第一期の県職員ということで大変珍しがられた。その頃の本県は「公害デパート県」の汚名を着せられ、知事直属の「公害課」が設置された。私は、水質汚濁・大気汚染、産業廃棄物など公害行政すべてを経験し、県内の多くの工場・事業場に立ち入った。神岡鉱山にも行き、坑道にも入った。今から思えば職員すべてが富山県の環境を守るのに必死だった。当然、帰宅は遅く、泊まったことも度々あった。正に、「24時間戦えますか」だ。現在ではとても考えられないことだが必死の日々だった。また、日本海の環境保全のため、ロシア、韓国にも渡った。特に、ロシアは極東一帯、サハリンまで出向いた。これも今はとてもじゃないが無理だろう。

環境保全課長時代は、ダイオキシン、アスベスト問題や「水の王国とやま」を掲げる中沖知事のもと、名水保全に取り組み、議会委員会答弁や記者会見をこなした。危機管理の部署でもあったため、最も大切にしたのは、スピード感と現場感覚であり、県民、議員、マスコミには実感がこもる説明に努めた。その後、環境科学センター所長を最後に県を退職し、高圧ガス団体の専務理事として赴任した。すぐ、これまでの行政感覚から民間感覚に切り替えた。一番の思い出は東日本大震災である。あの頃は、オール電化真っ盛りの時代で、停電が長引き、移動可能なLPガスが重宝がられた。しかし、ガス圧力を調整する機器が被災のため供給できず、LPガスが使用できない。このため、事業者の協力を得て、無償提供された機器を福島県に送り大変感謝された。エネルギーの多様化・分散化はエネルギー危機管理の基本である。この団体はリーマンショックから立ち直り、組織基盤が安定したことを見届け、後進にお任せした。

あとがき

私は、三つの組織を経験したが、「環境・危機管理」は一貫して天職であったと思っている。県退職後は、区長や土地改良区役員などを務め、悠々ではないが自適生活を送っている。小さい地区なので、今も複数の役員を兼任しており、これまで婦人会を除き、ほとんど経験したのではないかと。多様化、複雑化が急速に進む現代は、リーダーは若い人でなければならない。私も最後は、少し早めにバトンタッチをしてきたつもりだ。後を託された者は礼節の気持ちを持って上手に世代交代を進め、新しい感覚で取り組めばよい。今の世は、コロナ禍、エネルギー、脱炭素など問題は山積みしているが、逆に地球規模で仕事の幅は広がっている。我々の時は、よく、高専卒は真面目だが、「ゆとり・遊び」が今一步、という声を聞いた。産業界の求める即戦力の裏返しかと、深読みした時もあったが、評価するのはあくまで外側の声だ。今はどんな評価だろうか?現代は、より高度で広い知識、技術が求められている。後輩諸君は、むしろ一貫教育を基盤にしてどんどん上を目指して欲しい。基礎研究に進むのもよし、専門技術者になるのもよし、広く浅く、行政に進むのもよし。自分の人生だ、幅広く自由に羽ばたけばよい。ただし、政治家になる人は、まず、身を律することに徹し、特に「紳士・淑女」であるべきだ。近頃、つくづくそう思う。

最後になるが、そろそろ、富山高専卒のノーベル賞受賞者が出て欲しいと願っている。



舟川べり

おちこぼれでした 人生なんとかなるもんだwww

石坂 鉄哉 Tetsuya Ishisaka (M11)



そうそうたる方々が寄稿されておられる同窓会会報に、私ごときに原稿を書けとは、なんとまあ冒険心(遊び心)のある役員様かと驚いております。

まずはプロフィールから

昭和49年、機械工学科に補欠で入学のM11です。生来の勉強嫌いで順風満帆とはいかず、幾多の留年の危機を何とか潜り抜け、どさくさに紛れてまんまと卒業。成績が悪かったことから、就職先がなかなか決まらなかったものの、地元の駐在さんから警察官募集の勧誘を受け親が乗り気で、しぶしぶ受験したところ、見る目のない警察幹部のおかげで採用となりました。主に交通畑を渡り歩いて勤続40年、生来の勉強嫌いから、たいして昇進もせず、またまた、どさくさに紛れて円満定年退職。退職後は、再任用を勧められるも人に使われるのが嫌だったことから、実家の農地でド素人の白ネギ栽培一人農業やっています。

ひよんなことから、猫を飼うことになり、現在では12匹の保護猫と一緒に生活しています。好きな言葉は「猫の恩返し」ですが、12匹も居るのに、いまだ宝くじの高額当選はしていません。まあ、こいつらが居るだけで癒されており毎日猫吸いまくっています。

(猫飼っている方はわかると思います)

10年前に妻に先立たれましたが、もし妻が居れば「ぶらぶらしとらんと勤めにいられ」「猫そんなに飼って馬鹿じゃないが」ときつとっていただいでしょう。巷でいう「没イチ」であり、寂しさや将来の不安もありますが、猫たちとの気楽な独身生活を謳歌しております。



ここに顔をうずめて猫吸いします

学生時代の記憶

・旋盤壊した

一年生の旋盤実習の時、縦送りと横送りを間違えて旋盤を壊してしまいました。教官ごめんなさい。

・アルバイト三昧

とにかく一生懸命に勉強したという記憶はほとんど無くて飲食店関係のアルバイトばかりやっていました。郊外のレストラン、市内のステーキハウスレストラン、しまいには桜木町の某クラブでボーイもやりました。お姉様方から、ちやほやされて楽しかったなあ。

・卒業研究

卒業の関門である卒業研究いわゆる卒研、アルバイト三昧であったことから真面目に取り組まず相方に迷惑ばかりかけてました。相方、元気してるかなあ。

警察官時代の思い出

2年間所属していた管区機動隊、成田空港の警戒警備の任務での事前教養で、過去に過激派から襲撃を受けて警察官に死者まで出たと聞きました。戦争に行くのではない、警備に行くだけだと自分に言い聞かせて、任務にあたったのですが徹宵警戒では、どこから襲われるかとドキドキヒヤヒヤでした。

・拳銃

警察官の三種の神器である拳銃、幸いにも訓練で撃つだけで、実務での発砲はありませんでした。

・死体解剖

主に交通畑を渡り歩いてましたので、めったに死体解剖は無いのですが、多重事故で死因特定(どの衝突が死因なのか)の必要があり何度か解剖の立会いをしました。ドクターの解剖所見をもらって、さっさと帰りたいのですが好意か意地悪かわかりませんが、ドクターから「君、閉腹してみるか」と有難いお言葉を頂き、弱みを見せられず開き直って人生初めて、釣り針みたいな形の縫い針で解剖後のご遺体のお腹を縫いました。

・柔道

職業柄、剣道か柔道の選択で柔道を選びました。なんとか2段を取得しましたが、学生時代の武道と同じの弱弱であり、得意技としては、その1「口車」、その2「逃げ腰」、その3「まる投げ」ってところでしょうか。

白ネギ栽培について

農作物は手をかければかけるほど、ちゃんと応えてくれます。人様から、「あんたところのネギうまかった」「ネギ嫌いだった子供が、あんたところのネギなら食べる様になった」と聞くと、自分の子供が褒められたように嬉しです。とは言うものの、白ネギ栽培4年目のド素人であり、出荷組合からもらった栽培マニュアルとチューブ頼りで毎年毎年が一年生です。炎天下の農作業や極寒のなかでの出荷調製作業等身体的につらいことが沢山あり、また農業収入も少なく、よっぽど会社勤めの給料の方が格段に大きいのではないかと思います。一人農業の気楽さからは、もう離れられません。

最後に

私は、学業とは全く異次元の警察官という職業に就き、また定年退職後も農業をしています。警察の仕事も農業も経験を積むと効率を求める上で何も考えず、ひとつの作業を省略することがありましたが、省略したせいで元々やらなくてもいい作業が二つ増えることが多々ありました。「経験を積み」「マニュアル人間になるな」「応用をきかせろ」とよく言われますが、あくまでも基本やマニュアルを十分熟知した上での言葉であると気づかされました。作業効率を求める上での作業工程の見直しは必要ではあると思いますが、営利を追求するあまり誤った作業工程の省略により大変な状況に陥っている会社が有ると聞きました。作業の基本やマニュアルができた過程の裏の裏まで読み込んで仕事するのが大事かなと思う昨今です。おちこぼれであったこんな私が偉そうなことを言える立場ではありませんが、経験上つい思ったことを書いてみました。

それと、役職と肩書きがどんなに上だろうが五年間一緒に勉強した仲間、寝食を共にした同期生は宝です。定年になれば只の人。ため口でいいじゃないですか。楽しい人生を。

人生なんとかなるもんだwww



うれしい収穫です

「小さな企業ですが、世界に大きく羽ばたいています」

日清工業株式会社 代表取締役
滝内 史貴 Fumitaka Takiuchi (K12)



同窓会の皆様こんにちは！私は今から38年前の昭和60年に金属工学科を卒業し、工作機械メーカーである日清工業に入社しました。配属は技術部にて38年間、機械設計に従事してきました。そして令和4年の9月に前社長よりバトンを渡され、今に至っております。今回の「卒業生だより」への投稿にあたり、過去の記事を拝見させていただきましたが、皆さん素晴らしい学生生活を送ってこられた方が多く、私の場合、皆さんに誇れるような5年間であったか？と考えた場合、少々疑問に思える5年間でありました。特に4～5年時はアルバイトとバイクが記憶の多くを占めており、今考えるとあれをしておけば良かった、これをしておけば・・・と思う次第であります。そんな中、楽しかった思い出も沢山あります。5年時の卒業研究の期間ですが研究室のメンバーと担当の先生の家に泊まりに行ったり、遅くなった時などみんなで御飯を食べに外へ出たりして、メンバーや先生との距離が非常に近くなった記憶が今でも思い出されます。

その様な時間を過ごして今の会社に入ったわけではありますが、ここで日清工業を簡単に説明させていただきます。当社は両頭平面研削盤、超仕上盤、その他専用研削盤を設計、製造、販売しているメーカーであります。主力製品の両頭平面研削盤は当社も含め国内で3社、全世界でも7社程度と非常にニッチな業界となります。日清工業はこの中でも一番後発のメーカーではありますが、現在、世界シェアNo.1を誇っております。



両頭平面研削盤 機械外観



加工対象部品

本社工場は八尾中核工業団地内に有り、国内営業所は本社工場内及び大阪、愛知、埼玉にあり、海外は米国ミシガン州に現地法人、中国(上海)に営業所があり、インド、メキシコ、韓国、台湾などに販売代理店があります。従業員は現在96名(国内で従事している社員)となっております。主な取引先は国内と海外28か国の客先へ納入しており、国内外での売り上げの比率は、ここ最近では海外が6～7割程度となっております。

それでは主力製品の両頭平面研削盤について簡単に説明させていただきます。両頭平面研削盤とは向かい合った2枚のディスク状の砥石の隙間に加工物を挿入して、平行な2面を同時に加工し、その2面の平行度、巾寸法及び各面の平面度、面粗さ等の精度を高精度に、且つ高能率に加工する研削盤です。両頭平面研削盤のラインナップとしては大きく分類すると2枚の砥石が上下に向い合う立型と、左右に向い合う横型があります。そしてそれぞれに砥



両頭平面研削盤
-上下砥石とロータリードレス

石のサイズ(外径150～760mm)や加工方式により更にラインナップが細分化されております。加工の対象となるのは自動車部品が多く、その中でもブレーキディスク、ピストンリングの用途ではシェアが特に高く、オートバイのブレーキディスクに関しては世界の約90%以上を当社の機械で両面加工しております。また最近では電気自動車に搭載される駆動モーター内のマグネットの両面研削用として、シェアトップを誇っております。それ以外にもベアリング、ロボット、建機、家電、医療機器、測定器等の部品やセラミックス部品の加工にも多数採用されております。当社の機械の特徴は機械剛性が非常に高いということと、温度変化に対して2枚の砥石の角度変位が非常に小さい為、安定した高精度加工が可能になります。

このような機械に38年間携わってきて、いろんな経験を積ませていただきました。元々、日清工業は大阪の豊中市に工場があり、私も入社後6年半は大阪で勤めておりました。当時、箕面市に寮があって、毎朝6時に出て、夜帰るのは10時以降といった生活でした。そのような時代背景もあり、夜の9時頃にでも他県のユーザーから機械の調整を今から来てやって欲しいという電話を受け、車で現地へ駆けつけて翌朝まで調整するということが何度もありました。今はこのようなことは有りませんが、当時はこれが当たり前前の時代でありました。これも今となっては良い思い出になっております。

また、25年程前になりますが某大手セラミックスメーカーよりパソコンのハードディスクに使う外径35mmのセラミックスリングの両面を平面度0.7μm(7/10000mm)以下という精度に仕上げ、それを1秒に1個生産出来る機械を作って欲しいと依頼が来ました。セラミックスの加工には通常ダイヤモンド砥石を使いますが、この加工精度をクリアするには外径35mmのホイールの端面の振れを機上にて精密に修正してやる必要がありました。しかし、当時、ダイヤモンドホイールをそのように修正する技術がなく、そこでロータリードレスという装置を開発しました。それまでは砥材にアルミナや炭化ケイ素などを用いた一般砥石が多く使われていましたが、この装置を開発したことにより硬い材料に対する切れ味や耐磨耗性に優れているダイヤモンド、CBNを砥材に用いた超砥粒ホイールを機上にて精密に形状修正することが可能となり、当社の両頭平面研削盤に於ける砥石の超砥粒化に大きく貢献しました。

現在、自動車業界では電動化の波が押し寄せてきており、我々が作っている工作機械が多数使われていたエンジン等の装置が今後なくなりつつあると考えられ、その様な中、日清工業はいち早く、他の業界、又は電動化に必要な部品の加工機を開発し、この大きな波に呑み込まれないような準備をしており、徐々にその成果が出てきております。小さな業界ではありますがトップのポジションに居たら、いろんな企業から開発段階で研削加工の相談を頂くことも多く、成功すれば他社より先行することが出来、非常に有利な立場でその後の競合を進めることが出来ます。この状況を維持することは簡単ではありませんが、これからの時代を生き抜くには、今の立ち位置を守り続け、与えられたチャンスをものにしていくことが重要であると考えます。

これからの時代を支えていく学生の皆様、就職活動に於ける選択肢は沢山あり悩まれることと思います。安定・安心を求めて大手企業を志向するのも良いとは思いますが、当社のように100人にも満たない小さな集団でも世界の一流企業に認められ、対等にお付き合いをさせて頂いている会社もあります。このような会社でやりたいことを思いっきりやってみるのも悪くはないと思います。仕事上いろんな場面で富山高専に限らず高専出身者の方と出会う機会は多く、なぜか毎回勝手に親しみを感じてしまい、仲良くさせて頂くことが多かったように思います。これからもどこかでお会いしましたら声をかけて頂けたら嬉しいです。もちろん、八尾にあります工場を見学希望される方がございましたら、いつでも歓迎致します。

目の前にある仕事をコツコツと!

北陸電力株式会社 富山新港火力発電所 次長
中川 義雄 Yoshio Nakagawa (E18)

時にはKKDH!

高専を卒業した1986(S61)年春から37年が経ちました。皆様お久しぶりです。今回は、北陸電力に焦点があたったようで、高専(本郷キャンパス)出身者で活動する「本郷会」の会長を務める私に寄稿の声掛けをいただきました。寄稿の依頼を受けて、実家の古いミカン箱から卒業アルバムを開きました。恩師や同級生等との数々の場面がよみがえってくるもので、暫く余韻に浸っていました。



卒業生の会=「本郷会」で顔合わせ!

現在、本郷会の会長を拝命していますが、コロナ禍で3年間は開催ができず、会長交代の機会も逸してしまい、唯々務めているのが現状です。とはいえ、諸先輩方が当社の出身者に声掛けし本郷会を結成されたおかげで、在籍する在職会員120余名、OB会員約20名を有する組織となり、恩師の方々も含めて開催を案内すれば、毎回30~40名程が集い、近況報告等で大盛り上がりしています。同じ会社においても担当部門が違えば会う機会は殆どなく、本郷会で集わなければ高専つながりにも気づかないこともしばしばです。

近年の開催は、年齢問わず気軽に参加してもらえるような場所を選定し、居酒屋の雰囲気酒を酌み交わしていました。従って集合写真を失念していたようで、古い写真の掲載となっています。コロナウィルスの収束後は、また賑々しく語り合い、集合写真に収めたいものです。



本郷会総会集合写真(2015年10月24日撮影)
1列目左3人目から佐藤圭祐先生、小川勝先生、武田文雄先生を招いて。
筆者は2列目左から3人目

電力システム改革で北陸電力が真っ二つ!

北陸電力は2021年に創立70周年を迎えていますが、2020年に大きな会社分割がありました。それまでは「発電・送電・配電」一貫体制で安定供給を果たしていましたが、2011年3月に発生した東日本大震災以降、太陽光等の再生可能エネルギーによる発電事業者(新電力)が急増し、新電力から需要家へ届けるための送配電事業を担う部門(送電、配電等)は北陸電力から切り離し、中立性を保つ会社として独立する法律が制定されたことによるものです。当社に在籍していた5000人程の人員は、元々の北陸電力と、新たに誕生した北陸電力送配電とに分かれることになりました。私が所属する富山新港火力発電所は、北陸電力となっていますが、送配電部門等の方とは別会社となってしまいました。高専出身者も同様にそれぞれの会社で勤務していますが、本郷会は今後も一体として継続していければと思っています。

私の会社人生

○入社~30歳台後半の19年間 ~火力発電所のオペレータを目指して!~

北陸電力に入社し火力部門に配属され、最初の職場は富山火力発電所でした。神通川の河口西側に、白地に青ラインが鮮やかな煙突がそびえたつところでした。

現在の富山火力発電所は、老朽化した設備の廃止により4号機1台のみとなってしまいましたが、入社した昭和61年当時は、大型のボイラ・タービン等の発電設備を4機有し、大電源を富山・北陸エリアへ供給する役割を果たしていました。新入社員時代は、誰もが経験したと思いますが、先輩方の背中をみて学び、厳しい指導を受け、現場を走り回り汗していたことが思い出されます。火力発電所だけに夏場の汗は想像を絶するものでした。そんな時を積み重ね、火力発電所のオペレーター(中央制御員と呼んでいます)として現場へ指示を出す立場となった時には、緊張感の中にもやりがいを感じ、安定運転・安定供給の役割を果たしていることに充実感がありました。また、頑丈そうな機械であっても、時には繊細なものであることを知ることもありました。ポンプの軸受けからの僅かなカラカラ音が聴こえ、油面計の下部が濁っていたとき、その後の分解点検で軸受けの破損(ティナーリングの割れ)が発見されました。油の濁りは破損した部品が削られた摩耗粉によるものでした。小さな異常で発見することの大切さを学んだ瞬間であり、巡視点検で五感を研ぎ澄ますことの大切さを知りました。その頃先輩方から聞いたことですが、KKDH(感と経験と度胸とハタタリ)が大切だとのことでした。どれ一つ欠けてもダメだとよく言われた気がします。経験に基づく感!が閃いた時に度胸とハタタリが時には必要で、物事が解決し前進するものだと、今でも感じています。

卒業生だより

○ 30歳台後半～40歳台までの12年間 ～ one for all all for one !～

そんな火力三昧の会社人生が一変することとなったのが、2005 (H17)年の労働組合の専従としての出向でした。これまでとは全く違う未経験の世界に来たことに戸惑いだけで、労使協議や、他企業の労働組合との活動など、初めて経験することばかりでしたが、あふれるほど多くの社内外の人たちと出会い、時には酒を酌み交わしながら労働運動について話し合う時を過ごしました。労働者の抱える悩みと向き合うことも多々あり、相談されることも多く、生活相談室や弁護士を頼って訪問したこともありました。完璧ではなくても相談相手から感謝された時のうれしさは、自己満足もありますが活動をするうえでモチベーションになっていました。相手の話に耳を傾け、解決に向けて一緒に考えることの大切さを感じていました。

貴重な海外視察の経験もできました。エネルギー産業として進める原子力政策に関する活動もあり、放射線廃棄物の最終処分方法として実現が近づいていた海外の地中処分地を訪ねる企画があり、フィンランドのオンカロ(フィンランド語で「洞窟」を意味する)と呼んでいる地中処分地(地下約450メートル地点)を訪れました。「百聞は一見に如かず」実際に見聞きしたものは、理解活動を行う上で大きな力となっていたと思います。



フィンランドの放射線廃棄物の地中処分場
オンカロ視察 地下の様子



説明に耳を傾け！
(フード付きジャンパーが筆者)

○ 50歳台～現在までの約6年間 ～ 地元との信頼関係を大切に！～

2017 (H29)年に組合専従を退任してからは、富山新港火力発電所に配属され、地元対応や見学対応等に就いています。今から約6年前の当時は北陸電力初のLNG1号機建設工事の真っ最中で、毎日千人規模の工事関係者が出入りし、計画的に進められる工事と人の動きに圧倒されました。工事が進捗する毎に、地元への訪問・説明を繰り返し、営業運転を果たした時には感慨ひとしおでした。立地地域の方々との関係の大切さを感じ、丁寧な説明や日頃からの理解活動の必要性を感じた建設工事期間でした。富山新港火力発電所は、LNG・石炭・石油の3種類の燃料を貯蔵し消費する国内でも珍しい発電所であり、北陸エリアでは最大の発電量を誇り、地域の信頼を維持しながら安全・安定運転に努めているところです。コロナ禍前までは、年間二千人を超える見学者を受け入れていましたが、現在は中止しています。いずれ見学が再開されると思います。火力発電所の役割を多くの方に知ってもらい、地元地域の方々とも良好な関係を築き信頼の向上に努めていければと思っています。

○ 会社生活を振り返り思うこと！ ～ 若い人たちに伝えたいこと～

37年の仕事経験からは、目の前にある仕事をコツコツと手を抜かずやっていたら、誰かが見ていて、いつか必ず評価されるものだと感じています。与えられた仕事や気付いたことをやってきたことの繰り返しが、今の道を辿ることになっていると思います。正解は無いと思いますが、今の自分があるのは、諸先輩方や同僚達のおかげと思っています。

現場には実機がたくさんあります。実機と直接関わる経験は、単に技術技能の習得に限らず、経験値を高め、自信につなげることで成長させてくれます。失敗ができない世の中になってきていますが、寛容な気持ちと、適切な指摘は、いつの時代も必要なものだと感じています。世の中が複雑になり、AIやIoT、ビッグデータの活用により自動化が進んだとしても、人が大切であり、コミュニケーションを取りながら人間力を磨いていくことが必要だと思います。

おまけ

～ 休日の過ごし方～

○ 田んぼにずっぱり！畑は実験！

農家なので週末は田んぼの世話にそれなりの時間を費やしています。先祖の土地を守るくらいしか目的は無いかもしれませんが、田んぼの合間に実験のつもりで始めた野菜作りは、収穫があれば自己満足しています。落花生は6年目、スイカは4年目、里芋・トウモロコシ等々に今年も挑戦する予定で、失敗も多いですが自然の恵みには感謝しているところです。少しは畑談義にも付き合えるようになってきたかと思えます。今年も実験続きます。



昨年のスイカ！

～ 最後に～

最後までお読みいただきありがとうございます。まだある会社人生と余暇とのバランスを大切に、これからも毎日を過ごしていきたいと思っています。健康である限り忙しく動き回りたいと思います。

卒業してからの35年を振り返って思うこと

株式会社不二越 執行役員 油圧事業部長
市川 和愛 Kazuyoshi Ichikawa (M20)



1988年3月に富山高専機械工学科を卒業してから、早いもので35年が過ぎた。卒業した時には、今の自分を想像もしていなかったように思う。卒業後に勤めたのが、現在も働いている株式会社不二越だ。当時は、長男ということもあり、地元の企業で家からも通え、今まで学んできたことも活かせると思い、安直ではあるが不二越を希望し、縁があって勤めることが出来た。不二越は、ドリル、エンドミル、タップ、ホブ、ブローチなどの工具、自動車用、産業用軸受、油圧機器、自動車向け油圧機器、ロボット、特殊鋼の MATERIAL、ブローチ盤などの工作機、熱処理設備のサーモテックなど事業内容は多岐にわたる。その中で、私は入社から35年油圧部門の製造で、その内23年間は生産技術に従事してきた。生産技術一筋で、ロボットを使用した自動化ラインの構築、新規製造ラインの立上げに携わってきた。今は、その油圧事業を束ねる油圧事業部長として従事している。入社時には自分がとてもそのような立場になるとは考えてもいなかった。

さて、私が働いている油圧事業部の商品は、大きく建機商品と産機商品に分けられるが、建機商品は、皆さんが街中の工事現場などでよく見るショベルカーに使われる走行モータや旋回モータ、油を流す人間でいう心臓のような役割のポンプ、油圧の流れを切り換えるバルブ、油圧配管をとり回すための継手となるロータリーセンタージョイントがある。走行モータはショベルカーを前進後退させるための油圧モータ、旋回モータは人が乗っているキャビンを回す油圧モータである。当社は、6トン未満のミニショベルの分野で走行モータは世界シェアトップとなっている。

また、産機商品については、低騒音化、コンパクト化、省エネルギー化をキーワードとした油圧ポンプ、バルブ、それらを組み合わせたユニットがあり、工作機械分野、鍛圧、一般産機分野で使用されている。

そのような商品を生産する工程の設計から設備・刃具・治具手配、量産までの立ち上げを生産技術としてずっとやってきた。言うまでもなく、加工をする際に使用するドリル、エンドミルなどの工具は、工具部門に相談したり、自動化ラインで使用するロボットについてはロボット部門に協力してもらったりした。多岐にわたる事業を持っている不二越だからこそ出来た経験だと思うし、その点は生産技術者としての自分に十分すぎるほど大きなアドバンテージになっていたと、今になって思う。また、数学、材料力学、材料、統計学（品質管理）、情報処理など実際に学生時代に学んだことや、製図、鋳造、きさげ、旋盤加工などの実習で得られた知識もなかったら到底やっていけなかったと思う。

入社して2年は、実際に物をつくる現場で保全業務をしていたが、徐々に保全だけではなく自身で生産ラインを構築したいという気持ちが抑えられなくなって、自ら生産技術を志願した。それからは、先に述べたように23年間生産技術一筋となった。そこでは、実際には毎日が勉強だった。製造工程に関わる知識のみならず、改善などの手法などいろいろな知識を日々学んでいかないと、生産技術者として社外の設備メーカーには認められないと考えていた。勿論のこと、分からないことがあって悔しい思いもたくさんしている。そんな中で、品質工学との出会いが、私自身を大きく変えたと思う。生産技術者としての考え方だけでなく、仕事に対する意識、姿勢まで変えられたと感じている。もともと数学は好きだったし、統計学、ばらつきの話は嫌いな方ではなかったので親しみやすかったのかもしれない。ただ振り返ってみると、学生時代に学んだことを活かし、品質工学で自身の考え方、意識を変えられたことが、人生の転機であることは間違い無い。

また、生産技術で新しい生産ラインを立ち上げていて、新しく考えたことを実際の形にする難しさと、変化に対応して変えることの大切さを痛感してきたことも確かである。

自動車のEV化をはじめ、今世界は予想をはるかに上回るスピードで変わっている。ダーウィンの言葉に、「最も強いものが、あるいは最も知的なものが、生き残るわけではない。最も変化に対応できるものが生き残る。」とある。変化を恐れては何もできない。絶え間ない変化を受け入れなければ、何ひとつ良いことを享受できない。だからこそ、今求められるのは、変える意思と変化に対応する頭の柔らかさ、考えたことをまずはやってみることだと考える。それには、裏打ちされた知識、経験が必要になる。学生時代に学んだことは必ずどこかで活かしてくると思うし、そのためにも日々新しいことを学んでいくことも大切だと考える。仕事は問題があるからある。それをクリアしていくために何が必要かを考え、最後は自分に返ってくると信じて行動して貰いたい。



会社の25年目にあたるリフレッシュ休暇で、妻と北海道の美瑛へスカイラインの宣伝に使われた、ケンとメリーの木

卒業生だより

「富山高専を卒業して」

富士通株式会社 沼津工場
露木(水口) 裕恵 Hiroe Tsuyuki (C21)

～卒業してから～

C21の露木(旧：水口)です。1989年に卒業し、株式会社 富山富士通(現：富士通株式会社)に入社しました。その頃はまだ携帯電話やインターネット、PCが一般的には利用されていない時代。その年、富山八尾中核工業団地に新しく設立したそのIT企業に一期生として入社しました。(目新しさに飛びつきました！富山で就職したはずが静岡勤務となったのは想定外でしたが)入社後、静岡県に新人数百名が集合しての研修が始まり、初めて富山を離れての生活が始まりました。研修期間中、配属予定先に所属されていた沼津高専ご出身の先輩が、私が高専出身ということで激励にきて下さったことがとても心強く嬉しかったことを覚えています。



配属後は、当時企業で多く利用されていた大型汎用コンピュータへのソフトウェアの組み込み、その後パーソナルコンピュータが主流になってからはアプリケーション開発と、いくつかの職務を経験しました。現在は、社内システムの運用に携わっています。社員10万人以上が利用するシステムを継続して安定稼働させるために日々システムを管理・監視する、言わば、縁の下の力持ちのような役割です。高専で専攻していた工業化学とは違う分野ですが、システム状態の少しの変化や異常に気づき原因を調査していく作業は、担任だった篠田先生の研究室で、卒業研究課題の分析データを採取し考察した作業とも似たものがあり、当時を思い出します。

入社してから35年。IT技術は格段に進化し、特にここ数年はコロナ禍の影響もあり、業務の進め方や働き方、ライフスタイルは大きく変化しました。例えば、ハード・ソフトウェア、利用状況など複合的に状況が変化中、自分の限られた経験や想像が及ばない事象に遭遇したとき。現在は社内SNSなどのネットワークを通じて、地域や時間に関係なく、面識のない多くの有識者と情報を共有し、知見を得ることができます。複数のチャンネルで並列に会話することも可能です(数あるチャンネルで迷子になることもあります(笑))。それらを利用して運用業務に奮闘しています。そして今も昔も、その先には優秀な頼れる仲間が存在があります。それに支えられて、35年もの間この仕事を続けられています。

また、現在は働く場所や時間など、勤務スタイルを選択できるようになりました。多様化する個人のライフスタイルに寄り添う勤務スタイルの変化です。毎日会社に出社して皆で顔を合わせて会話する光景は懐かしいですが、ワーケーションされている方、育児や介護をしながら仕事をされている方、様々な働き方をお互いに尊重しています。私は4年程前

に大怪我をし、リハビリしながらのテレワーク生活を始めました。怪我は完治しましたが、その間コロナ禍となり、この約4年間自宅からのテレワーク勤務を継続しています。テレワークでの勤務は最初は戸惑うことが多々ありましたが、今は朝や隙間時間にオンラインでの習い事を始め、それがきっかけで新しい繋がりができたり、時々シェアオフィス勤務で気分転換したりと、テレワークの強みを活かして遅く成長しています。この年齢での学びは楽しいです。

～高専の思い出と在校生のみなさんへ～

富山高専では、私は硬式テニス部に所属していました。はじめは男子部マネージャーでしたが、2年生の時に数名の女子と硬式テニス部 女子部を創設しました。富山高専で初めての運動部 女子部だったと思います。当時担任だった尾崎先生、女子部顧問の田島先生に大変お世話になりました。設備の新設、試合への参加、運用・技術面、すべてが初めての経験で手探りでしたが、少しずつ部員も増え、部としてチームが形成されていきました。その形成に当事者として立ち会えたこと、少数派の高専女子も運動部で思い切り活動できたことに感謝しています。スポーツで得られる爽快感が忘れられず、その後、スキー、登山、ゴルフ、と色々なスポーツにチャレンジしています。ゴルフの練習では5年生の体育授業で松井先生にビデオを見ながら楽しくゴルフを教えていただいたことを思い出します。

在校生の皆さんには、高専の5年という月日、恵まれた環境・空間を十分に味わっていただきたいです。そこで得た経験は、この変化の多い時代に、変化の波の中で軸足の置き場所を見極め推進していく力となることと思います。その波が私たちをとりまく環境や生活により良い変化をもたらし、世代を超えて私も一緒に体験できることを楽しみにしています。

話は少しそれますが、最近、父が近距離モビリティ「WHILL」という乗り物を購入しました。若い頃は車、業務用トラック、オートバイと色々な乗り物に乗っていた父は、75歳になるとさっさと運転免許証を返納し、今では新しい楽しみを見つけたようです。これまでも病気のたびに前向きに努力してきた父ですが、その時々状況を受け止めて新しいことにチャレンジしていく姿に多くのことを学んでいます。私も人生100年時代を楽しむべく好奇心を忘れずにいたいです。

～あとがき～

今回、同じく富山高専卒業生の兄からの寄稿依頼がきっかけで、同級生と久しぶりにグループLineで連絡を取り合いました。時々、現役富山高専生の甥から学校生活の様子を聞いて懐かしんでいましたが(家族ぐるみで富山高専のお世話になっています)、この原稿を書くにあたり思い起こすと、卒業して約35年が経っていたことに驚きました。それと同時にその長い年月、同級生と繋がりがあることを確認できたことは嬉しい出来事でした。



2011年11月C21クラス会 篠田先生(左)尾崎先生(右)

関東地区 【電友会】

山崎 正男 (E11)

同窓生の皆さん、いかがお過ごしでしょうか？

今回は関東地区で開催している電気工学科卒業生の集まり、【電友会】について紹介させていただきます。電友会は1期生の先輩方が近江先生の退官のお祝いを富山で行った際、翌年に“関東で開催しよう”という発起で集まったのが始まりです。

第1回は1990年2月バブル絶頂期に開催され、電友会の幕が上がりました。当初は今とは違い、SNS、メールなどのコミュニケーションツールが無かった時代、会社関係、電話、手紙等で案内を行い、参加したのを懐かしく思い出します。

電友会は、1期生から幹事を持ち回り、会場の手配などを行い、恩師の先生方を招いて歓談、近況報告をするといった内容です。参加いただいた先生方は宮下和雄先生、(故)高藤先生、(故)近江先生、武田先生、小川先生、貴堂先生、亀田先生、櫻井先生だったと記憶しています。当初は40名を超える参加者がいたかと思いますが、高専生の卒

業環境が就職、大学編入等と変遷するにつれ、参加対象者が減少していきました。(就職で関東方面に出てくる方も少なくなっていたようです。)

E13期くらいまではほぼ毎年開催していましたが、E14期あたりから参加対象に連絡がつかなくなり、たまにE19期などが参加すると“新人さんいらっしゃい”状態の楽しい会となりました。近年の開催でも20名前後の参加者がありますが、若い参加者がいないので若返り策がないかが話題になります。そして、ここ3年間はコロナの影響で開催できておりません。

今回は第30回を迎え、バブル、リーマンショック、東日本大震災等の激動の社会をいかに乗り切ったかなど歓談できたらと思います。関東にお住いの卒業生の皆様、機会があれば是非電友会にご参加ください。よろしくお願ひします。



第7回電友会(1996年2月) 中央の先生は、左から近江先生、宮下和雄先生、高藤先生

柔道部OB会 設立50周年記念誌発刊に寄せて

多田 政史 (C25)

株式会社富士薬品生産事業本部第二製造部次長

コロナ前の2019年。お盆休みに富山市内の某ホテルにて柔道部恒例の柔道部OB会が開催されました。会員数200名より約60名が参加し、大いに盛り上がりました。思い出の写真を飾ったり、「一番●●だったのは誰だ?」という簡単な余興的なものをしたりと、お酒の力も加わり、あの青春時代にタイムスリップしたこの上ないひとときでした。



2019年開催の柔道部OB会(松井紳一郎先生ご夫妻)

その日の舞台裏での出来事。長年顧問をしてこられた松井紳一郎先生に呼び出され柔道部OB会発足50周年記念誌を発刊してほしいと依頼されました。富山高専柔道部と言えば、全盛期は全国制覇を何度も果たした名門中の名門です。先生が私のような者を編集部に選任したのは、富山在住で年齢もそこそこ、今も柔道に携わっているという単純な理由と理解しておりますが、いざ大役を終えると今回編集に携わることができて本当に良かったと感じております。

高専は5年制ですので上下4代の先輩・後輩の顔がわかるわけですが、50年以上の歴史があると、知らない方々、知らない時代のほうが圧倒的に多いわけです。寄稿の依頼案内を出し、徐々に原稿が集まってくると、自分の知らない高専創成期の大先輩方に始まり、直近の卒業生まで、点と点が一本の太い線になっていくのを感じました。そして出来上がった記念誌を前から順番に読み進めて行くと「線」というより、もはや「道」という感じがしました。時代背景や環境が刻々と変わっていく一方、終始一貫基本的な校風、特にやらされるわけではなく、学生が主体的に目的意識をもって部活動に取り組む伝統は変わっていないこともわかりました。また、面白エピソードに思わず笑ってしまったり、近況報告に驚いたり、写真や試合成績から当時の振り返ったりと、思い出をカタチとして残すことができました。コロナもあって企画から発刊まで少し時間を要しましたが、編集員としても満足のいくものになりました。また、富山高専には柔道部以外にもたくさんの部活動がありますが、その中でこのような記念誌を一番最初に発刊できた

のが柔道部だと松井先生からお聞きし、誇りに思いました。今たまたまこの文を目にした皆さん、ぜひ思い出をカタチに残すことをお勧めします。

さて、ここで私の個人的な話を少々書かせていただきます。現在、富山市内の医薬品関連の会社で工場勤務をしながら、いまだ柔道と付き合い続けております。「継続は力なり」が信条でして、週の半分は柔道衣に袖を通しております。少年柔道教室の指導、中学のエキスパートコーチ、審判や協会役員としての業務など、おかげさまで充実した日々を過ごしております。

さらには競技者としても絶賛奮闘中です。もともとそんなに強くもない私ですが、縁あって形(かた)競技に取り組むことになりました。柔道にはみなさんご存じの試合形式のほかに、空手などで見たことがあると思いますが形競技があります。私は同じ高専柔道部の後輩、鷹取慎也さん(E29)とペアを組み、固の形(かためのかた)という種目に挑戦し、今年で6年目。令和4年度には念願の全日本柔道形競技大会出場を果たし、更にはその成績が評価され、全日本柔道連盟の強化指定選手にも選ばれました。また、今年1月に開催された日本ベテランズ国際柔道大会では優勝することができました。通常の試合ではどんなに練習しても素質や限界があります。間違っても私が全日本大会に出場することはできないでしょう。でも、形ならこんな私でもまだまだ上を狙えるチャンスがあると信じて、本気で取り組んでいます。50歳になった今、30年前と変わらぬ青春を過ごしている感じです。

最後に、この原稿をたまたま目にした方、とりわけお若い方には仕事以外にも何か打ち込めるものを持っていただきたいです。趣味でもいいし、子育てでもいい。人生を豊かにできる生きがいみたいなものが一つあると、充実した日々が過ごせると思います。また、それが誰かのためになる、誰かに感謝されることならば最高だと思います。

令和4年度全日本柔道形競技大会(講道館)
右側が鷹取慎也さん、左側が筆者



日本ベテランズ国際柔道大会(講道館)
左側が鷹取慎也さん、右側が筆者

C3女子会 楽しく開催

林 和子 (C3)

私たちC3女子、4名は2022年12月5日、金沢の奥座敷、湯涌温泉に宿泊。ホテルは料理よし、温泉よし。深夜、運命のFIFAワールドカップ、クロアチア戦を応援するも残念！翌6日は、石川県立図書館(館内のオシャレなカフェでモーニングコーヒー)、石川県立美術館、兼六園の雪吊りを鑑賞。その後、卯辰山からの景観、老舗のステーキ屋さんなど五感を充分活性化させてくれました。富山に着く頃には見事な虹が。初冬の金沢小旅行を満喫し、次の元気な再会を約束しました。



C3女子会

E4第4回 オンライン・クラス会開催

村井 好信 (E4)



E4 第4回 オンライン・クラス会 2023.01.15

今年もオンライン・クラス会を1月15日に開催しました。コロナ禍でリモートワークに利用しているTV会議を活用したクラス会が安全&気軽にできるのではと考え、3年前に準備を始めました。しかし、連絡が取れない方やTV会議環境未整備の方も多く、悪戦苦闘の末に何とか定期的開催できるようになりました。

今年是小川先生と同級生8名が参加し、それぞれの近況報告や過去の思い出話を楽しみました。

卒業後は各地に散ってしまっていたため、このオンライン・クラス会は再会する良い機会となりました。オンライン上では遠方に住む同級生たちも簡単に参加することができるため、地理的な距離を超えて交流を深めることができました。

最後に今後の再会の話し合いも行いました。今年72歳卯年の節目でもあり、対面での再会を計画し一泊二日の観光を兼ねて開催することを決めて閉会しました。

小川先生には毎回ご参加頂き、ありがとうございました。

尚、本クラス会の様子は動画や写真でGoogleアルバムにUPして同級生達がいいつでも閲覧できるようにしています。

M15 11年ぶりの 第2回クラス会

中川 和浩 (M15)

2023年1月3日機械工学科第15回生同窓会を開催しました。2012年正月の第1回開催時に“次回は還暦を迎える2023年に集まろう！”と約束してから早や11年が経ち、コロナ禍を乗り越えての第2回開催となりました。

自身やご家族の事情により、残念ながら欠席となった方もおられましたが、恩師の田島先生をはじめ14名が参加しました。ANAクラウン富山ホテルの『富山城』が正面に見える素晴らしい会場で、11年の歳月を感じながらも、変わらない仲間たちとの思い出話や近況を報告し合い、久しぶりに懐かしいひと時を過ごしました。卒業から40年の年月が過ぎましたが、私たちはあの頃の友情や絆を忘れてはいません。最後に記念撮影を行い、これからも定期的な交流を続ける事を誓いあいました。

同窓会開催にむけ、ご尽力頂いた皆様に感謝致します。



第2回M15クラス会

M30同窓会 & 富田先生定年お祝い

高清 徳義 (M30)

4月22日、ゆ〜とりあ越中にてM30の同窓会を行いました。2021年度に富田先生が定年を迎えられたお祝いと、コロナ禍の影響も落ち着いてきたタイミングでの開催ということもあり、今回はクラスの約半数に当たる19名の参加者があり、皆元気で笑いの絶えない同窓会となりました。

宴会前にホテルに到着した際には、宿泊者の部屋に集合してにぎやかな自己紹介を終え、宴会場へ。同窓会会報VOL.25の通り、同窓会中でも先生の大好きな「エーデルワイス」の歌から始まり、盛大な宴となりました。

富田先生はM30の私たちにあって、入学時から2年間のクラス担任であり、英語の教師でもあります。富田先生といえば英語の授業中、文節の切れ目に「バツ〜んっ!!」と大声で叫ぶのが名物でしたが、宴会中にも炸裂して、「先生まだまだ現役行けるんじゃないか。」と歳を疑ったぐらいでした。先生、いつまでもお元気で。

卒業してから四半世紀。姿かたちは多少変わっても変わらない仲間たちとの再会。やっぱり同窓会は良いものですね。

M43クラス会

沢田 智之 (M43)

2022年12月29日(木)に同窓会を開催したことをご報告致します。参加人数は8名でした。今年も安定の開催です！

今年の幹事は沢田智之さんでした。幹事は海外出張で不参加でしたが、現地から店の予約を段取りしてもらい、リモートで乾杯の挨拶をしていただきました。

(現地時間夜中の3時！)

皆さま2023年も宜しくお願い致します。



M43クラス会



M30同窓会&富田先生定年お祝い

大ほんごう会開催！（同窓会総会・懇親会）

令和5年度 ほんごう会定期総会

次第

会員相互の親睦と母校の発展を図るため、4年振りに「大ほんごう会」を開催いたします。

恩師の先生方にもご参加頂く予定です。学生時代の思い出、近況報告、企業の情報交換、転職情報など、参加されるみなさんにとって有意義な時間になればと思っております。クラス会を兼ねての参加も大歓迎です！

参加される先生方は、決まり次第ほんごう会ホームページにお知らせします。

多数の皆さんのご参加をお待ちしています。

定期総会（4階） 15時～16時20分

基調講演

講師：東京都市大学 教育開発機構 教授 伊藤通子 (C11)

演題：仕事も、子育ても、介護も、学びも、諦めない人生を！

（講師プロフィール）

昭和54年に富山工業高等専門学校(工業化学科)卒業後、

本校技術専門員として35年間勤務

東京大学大学院特任研究員を経て、平成29年度より現職。

懇親会（2階） 16時20分～18時30分

日時：令和5年11月18日（土） 15時～18時30分

場所：オークスカナルパークホテル富山

（富山市牛島町11-1 TEL 0120-372-555）

会費：定期総会（講演会含む参加費無料）

懇親会（参加費7,000円）

どちらかみの出席も出来ます。



申込みは、ほんごう会ホームページ・右のQRコード・メールにて、10月31日までにお知らせください。

事務局からのお知らせ

1 課外活動指導員を募集しています！

みなさん、こんにちは！富山高専本郷キャンパスの学生主事をしているE15佐藤主祐です。

現在、土日などのクラブ活動(特に運動部)の引率は顧問教員が行っております。しかし、教員数が減ったことなどで引率教員の手配が難しくなっております。このため、昨年度より「課外活動指導員」という制度を設けて、学外の方を雇用し、休日などの顧問教員の都合がつかないときに指導員の方に代わりに引率をして頂いているところですが、なかなか人が集まらないのが現状です。卒業生の方で、土日などにクラブの引率に協力して頂ける方がいらっしゃいましたら、ぜひ右のQRコードのハローワーク求人検索から「富山高等専門学校 課外活動指導員」と検索し応募してください。ご協力よろしくお祈りいたします。



編集後記

同窓会誌(Vol.27)に投稿頂きました卒業生の皆さんには、お忙しいにも関わらずご協力頂き大変ありがとうございました。この場をお借りしまして皆さんにお礼申し上げます。事務局では、次回同窓会誌(Vol.28)の原稿集めも開始しており、来年8月配布を目標とします。

さて、卒業後の皆さんは毎回の会報誌を読まれて、どのように感じておられますか？「私の歩んだ道を皆さんに知って欲しい！」「クラスの仲間や部活動の仲間は今どうしている？」など、本郷キャンパスの仲間を思い出しながら

2 令和5年度定時理事会開催

令和5年度ほんごう会定時理事会が6月22日に開催され、提案された5件の議案は全て承認されました。同時に役員改選の審議も行われ、今後3年間の役員(P2)が決まりました。詳細はほんごう会HPに掲載します。

3 会員情報変更手続き

ほんごう会ホームページより、会員情報の変更が出来るようになりました。住所・勤務先・連絡先等の変更がありましたら変更登録をお願いします。

投稿して頂ければ、それを機会に連絡を取り合ったり集まったりして、あの時の学校生活を思い出すきっかけになればと思っています。思い切って会報誌に投稿しよう！連絡をお待ちしています。（藤田）

事務局

・藤田 正良 (E9) : fujimasa70@gmail.com

・種部 元仁 (E20) : tane@b.email.ne.jp

ほんごう会事務局

HP <https://hongokai.sakura.ne.jp/>
Eメール toyama@hongokai.sakura.ne.jp

